

哈薩克の
恫情

哈薩克の
待遇

氈幕内の
狀況

めたるに、側なる護衛の一騎士、予が袖を曳て曰く、彼等は日本の大人を見んが爲め態々遠方より來りし者と。予曰く予は日本人のモデルとして見られんは、我國人に對するの面目を失す。諸子請ふ幸に我國人の爲めに辯護せよと。一行覺えず哄笑せり。斯くて塔勒德河に至り宿す行程約九里。

六、連騎流水を堰く哈薩克兵

六日昌曼河チャマンを渡る。水深馬腹に達して而も流速極めて急なり。打ち見たる處能く渡渉し得べきやを危む。忽ち哈薩克千戸長の一令下に、三十餘騎一鞭馬を上流に躍らせ、予が爲めに一連の縦隊を作りて水勢を堰き、別に千戸長等數名予の前後左右に在りて萬一を警め、保護至れり盡せり、其恫情親切轉た感謝に堪へざるものあり。騎渡二十分間時にして始て登岸し別什脫博ベシトボに達す。行程約七里。

別什脫博に達する約半里許の處に出迎の哈薩克五六十騎、路傍に下馬し、予に對して一齊に敬禮の後、又一齊に乗馬するや、其の數騎は前驅と爲り、他は予に隨行せり。斯て設けの氈幕に着すれば、此處にも二、三十人の哈薩克出迎する鞠躬如として王公貴人を待つに似たり。而して其の氈幕内は、金銀五采の色糸にて刺繡哈薩